

コロナに負けずにがんばろう！

新しい

ちいき かつどう
地域活動
スタイル 2

～大切な“地域のつながり”を守り続けるために～

みんなでつくる！「新しい地域活動スタイル」

市内各地域や他都市で工夫して取り組まれている地域活動の事例や、
自治会・町内会アンケートでお聞きした事例をまとめました。

目次

1 住民の参加が少ない

- 1－1 親睦・交流の工夫
- 1－2 地蔵盆の工夫
- 1－3 多様な住民の参加の工夫
- 1－4 お知らせの工夫
- 1－5 防災活動の工夫

2 役を担える世帯が少ない

- 2－1 回覧・配布の工夫
- 2－2 役員の負担軽減の工夫
- 2－3 役員の引継ぎの工夫
- 2－4 話し合いの工夫

3 活動が負担

- 3－1 活動見直しの工夫
- 3－2 デジタル化の工夫

4 連携の工夫

- 4－1 NPOなど市民活動団体との連携
- 4－2 企業・事業者との連携

5 コロナ禍の工夫

「活動への参加者が少なくて」

「できるだけ多くの人 参加できる方法に見直そう」

地域では、様々な働き方や住まい方、ライフスタイル、価値観の人が暮らしています。できるだけ多くの人に参加しやすい活動は何かを話し合い、必要に応じて時代に合った方法に見直しましょう。また、参加するしないはそれぞれの意思を尊重し、参加できなかった人とも安心して暮らせるあたたかいつながりを保ちましょう。



- 1 - 1 親睦・交流の工夫
- 1 - 2 地蔵盆の工夫
- 1 - 3 多様な住民の参加の工夫
- 1 - 4 お知らせの工夫
- 1 - 5 防災活動の工夫

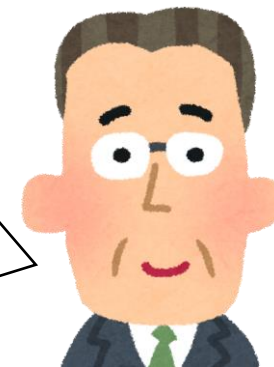
1－1 親睦・交流の工夫（1）

公園やガレージなどで、定期的にラジオ体操をしています。ちょっと顔を合わせる機会があると安心ですね。（右京区，約70世帯）



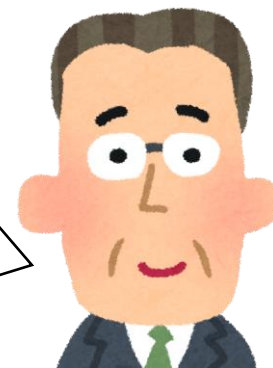
お花見を復活させようと思っています。コロナで顔を合わせる機会が減り，ちょっとした変化に気づきにくくなったので，やっぱり年に1回くらいは集まりたいな，と思うんです。（山科区，約70世帯）

コロナで中止になっていた茶話会を再開しました。個包装のお菓子や紙パックのお茶を使うなど，感染予防対策はばっちりです。（右京区，約30世帯）



1－1 親睦・交流の工夫（2）

コロナで中止になっていたお祭りを再開しようと思います。飲食ブースは出さず，個包装のお菓子や紙パックのジュースを配り，感染予防対策はばっちりです。（右京区，約100世帯）



小学生の保護者でつくる子ども会が子ども向けの行事を取りまとめています。小学校高学年や中学生は，参加するだけでなく行事を手伝うのが楽しいようです。（西京区，約220世帯）



【コラム】

子どもたちは行事を楽しみにしているようです。また，子どもたちのためなら町内会がまとまる，という声も聞かれます。少子化が進む中でも，子どものための活動が続けることが，地域のつながりづくりに一役かっている場合もあるようです。

1－2 地蔵盆の工夫（1）



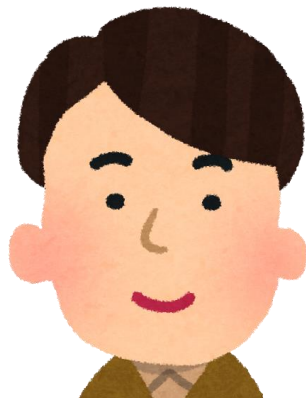
コロナ禍のため役員では中止を検討していましたが、住民から子どものために行事を絶やさずできることをしたい、という声があがり、お菓子と図書カードを配りました。（南区，約60世帯）

コロナ禍では、お寺さんをお願いしてお参りだけにしました。昔から続けているので中止にはしたくない、という意見でまとまりました。（下京区，約30世帯）



例年2日間にわたって大規模に開催していましたが、コロナ禍では半日に短縮。屋外で人数を制限し、時間帯を区切ってゲームだけ開催しました。（右京区，約150世帯）

1－2 地蔵盆の工夫（2）



うちの町内では、外孫も参加できるので、毎年たくさんの子どもが参加してくれます。外孫のお子さんには参加費をいただくことにしています。（上京区，約30世帯）

最近は子どもがいなくなったので、地蔵盆をお年寄りのおしゃべり会に変えました。昔を懐かしむ声も聞かれ、皆さん楽しんで参加されます。（上京区，約30世帯）



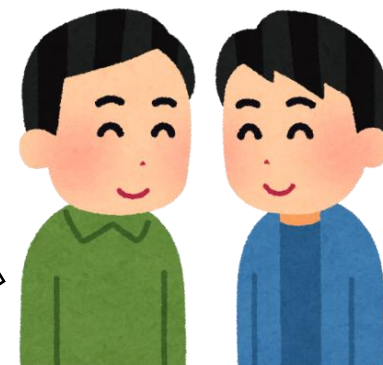
【コラム】

地蔵盆の歴史は古く、老若男女問わず参加できる町内会の行事として、京都では地域のつながりづくりの礎となってきました。準備から片付けに至るまで全て町内会で行い、地域によって様々な方法で開催されています。

（参考）地蔵盆 [アンケート調査結果まとめ2021 \(city.kyoto.jp\)](https://city.kyoto.jp/)

1－3 多様な住民の参加の工夫（1）

毎月の清掃活動は、誰でも参加しやすいようです。屋外なのでコロナ禍でも続けられますし、普段は会わない方同士、ちょっとした会話も生まれていました。（北区，約80世帯）



外国籍の方が引っ越して来られたんですが、子ども同士が先に仲良くなったので、子ども会にお誘いしました。今は、率先して活動に参加してくださっています。（左京区，約50世帯）

【コラム】

国籍が違って地域コミュニティの仲間、外国籍市民の方が一番理解できる言葉は「日本語」です。「やさしい日本語」でお互いに理解し合うことから始めてみましょう。
（参考）外国人女性の会パルヨン作成「となりの外国人とのおつきあい」

<https://paruyon.jimdofree.com/tonarinogaikokujin/>

1－3 多様な住民の参加の工夫（2）

コロナ禍では人数を絞って活動しましたが，新しく来られたご家庭には，地域でおつきあいしやすいよう，優先的に声をかけました。（北区，約50世帯）



町内の賃貸マンションに暮らす20代の社会人の方が，個別に町内会に加入して積極的にお手伝いして下さいます。関心ある方にはきちんと届くよう，地域の情報を届け続けることが大切ですね。（下京区，約60世帯）

【コラム】

アパートで一人暮らしをしている学生など，居住期間が限られるため町内会に入る必要が感じにくいかもしれません。片や，ボランティア活動に関心のある学生には，清掃活動や子ども向けの活動が人気だそうです。誰でも参加しやすい活動からお誘いしてみると，興味を持ってくださるかも。

1－4 お知らせの工夫

コロナ禍でも、少しでも地域の様子が伝われば
と思い、毎月ゴミ回収日をお知らせするチラシ
に、地域の行事のことを簡単ですが書き加えて
います。（北区，約100世帯）



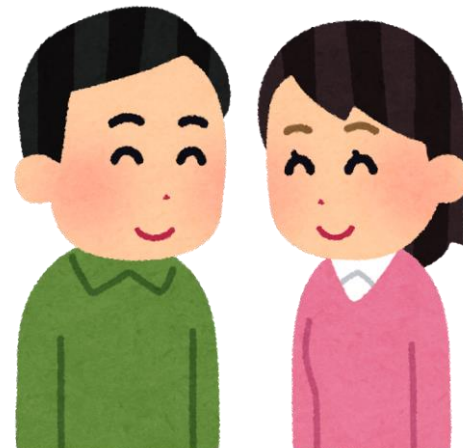
情報発信や役の引継ぎの効率化などについて話し
合った結果、町内会アプリを導入することになり
ました。日常的な発信だけでなく、住民同士の相
互交流の場にもなっています。（伏見区，約240
世帯）

【コラム】

誰でも地域の活動を知ることができるよう、SNSやアプリなどを使いこなして情報を
発信している地域もあります。その地域に合った方法で、できるだけ多くの住民の皆さ
んに、地域活動についてお知らせできる方法を考えてみましょう。

1－5 防災活動の工夫

消火器の場所や避難場所などを記したマップを作り町内会で配りました。もともと町内会がなかったのですが，防災上必要だという声もあり，住民アンケートを行った結果，賛成多数で設立に至りました。（左京区，約60世帯）



コロナ禍で住民同士の交流が減ったけど，防災非常食を入れ替える時に，消費期限が短いものをお配りしながら顔を合わせる機会をつくったんです。もちろん，取りに来られない世帯には，役員が個別にお持ちしましたよ。（山科区，約190世帯）

災害が起こっても，私は大丈夫だよ，と知らせるための黄色い旗を各世帯に配っています。（伏見区，約60世帯）



「役を担える世帯が少なくて」

「それぞれができる範囲で 無理なく担えるように」

単身世帯や共働き世帯の増加，少子化，高齢化など，社会背景が急激に変化し，地域活動に参加できる世帯が減っています。地域の世帯構成に応じて，誰でも担える形にする，または，それぞれができる範囲で無理せず担える形にする，など，時代や地域にあった運営方法に見直していきましょう。



- 2 - 1 回覧・配布の工夫
- 2 - 2 役員の負担軽減の工夫
- 2 - 3 役員の引継ぎの工夫
- 2 - 4 話し合いの工夫

2-1 回覧・配布の工夫

役員とは別に配布物係を決めて、立候補した方に一括で担っていただいています。（伏見区，約50世帯）



地域での配布物は一旦会長に集約し，月2回の市民しんぶんと時期を合わせて仕分けて組長に渡すことで，各役員の手間が少なくなりました。（伏見区，約120世帯）

回覧物の写真を撮って組のLINEグループにアップし，LINEが使えない方だけ配りに行きます。家庭内の複数の方にグループに入ってもらったら同時に情報が行くので，回覧よりいいかも。（北区，約70世帯）



2-2 役員の負担軽減の工夫



役員とは別に総務係をつくり，自治会長が任命できるようにしています。配布物の仕分けや案内文の作成など，時間が取れる方をお願いできるのでとても助かっています。（左京区，約60世帯）

ご高齢の世帯が増え，組ごとに役を担える世帯数に偏りが出てきたので，組を再編しました。回覧や配布の範囲も変わるため，何回も説明してご理解いただきました。（北区，約80世帯）



役の決め方など，これまで覚書だった町内のルールを会則に作り直して，誰でもわかりやすくしました。新しく転入して来られた方にもわかりやすくなったかな。（左京区，約25世帯）

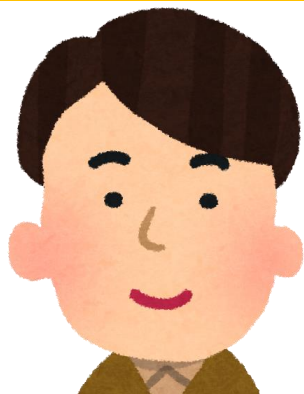
2－3 役員の引継ぎの工夫

歴代役員が毎年加わるLINEグループを作り，わからないことを聞いたり，活動を見直す場合にご意見を聞いたりしています。皆さん協力的で，とても心強いです。（山科区，約70世帯）



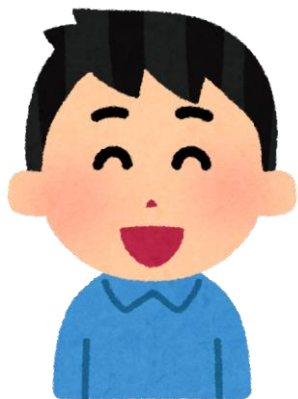
これまで役員ごとに口頭で引継ぎをしていたので，互いの仕事内容がわかりにくかったのですが，副会長が各役員の仕事を一覧にして，毎年更新していくことにしました。新役員もやることが一目でわかるようになりました。（北区，約100世帯）

2-4 話し合いの工夫（1）



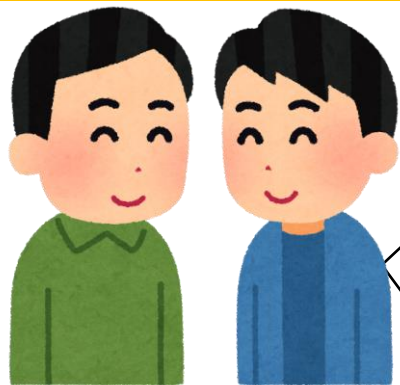
今年の総会も，コロナ禍の影響が大きいと判断して書面決議にしました。賛否だけを聞くのではなく匿名の意見書を同封し，議案に関する意見を丁寧に集めました。（上京区，約30世帯）

コロナ禍の会議はまだまだ心配な方も多いので，広い会場を借りて密にならないように総会を行いました。やはり集まった方が，意見を出しやすいようです。（南区，約50世帯）



加入世帯数が多いので，日常的に意見を集めるための「きづきの箱」を各棟に設置しています。匿名で出してもいいので，たびたび意見が寄せられていますよ。（南区，約690世帯）

2－4 話し合いの工夫（2）



ゴミ当番の担当制を導入するために、役員だけで決めず、全世帯にアンケートをとりました。大事なことは住民の皆さんの意見を聞いて決めたいですね。（中京区，約50世帯）

コロナで集まらない時期は、リモート会議にチャレンジしました。リモートで参加できない方には、後日書面で資料を共有し、情報がいきわたるように配慮しました。（下京区，約40世帯）



【コラム】

コロナ禍で活用が広がったデジタル技術。遅い時間の会議に参加できなかった方がオンラインで参加できるようになるなど、新しい可能性が広がりました。コロナ禍が落ち着いてもとの活動に戻るだけでなく、デジタル技術の便利な面を活かしていきましょう。

「役員の負担が大きいです」と感じます」

「1年交替の役員でも 続けられる方法を見つけよう」

持ち回りで1年交替の町内会長が多いため、誰が役員になってもできる方法を見つけていくことが大切です。もしできないことがあれば、周りの住民が助け合えるようなくみも考えて行きましょう。



- 3 - 1 活動見直しの工夫
- 3 - 2 デジタル化の工夫

3－1 活動見直しの工夫（1）

伝統文化は途絶えないようにしたい，という声があったので，活動を縮小してもお祭りや地蔵盆だけは中止にせず，町内全世帯で受け継いでいます。（左京区，約60世帯）



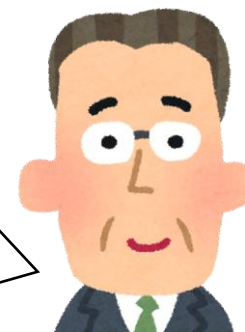
高齢者が多く，運動会への参加は難しくなりました。これまでやっていた活動に優先順位をつけた結果，防災活動に注力するようにしました。（伏見区，約60世帯）

3－1 活動見直しの工夫（2）



これまでみたいにおまつりや運動会には参加しにくいのですが，回覧だけは回しています。声をかけるきっかけにもなりますし。（東山区，約20世帯）

単身でお住まいの方が多くなったので，何かあった時のために町籍簿を作って，連絡先だけは管理しています。（伏見区，約50世帯）



【コラム】

これからの時代に合わせて「必要な活動に絞って実施したい」など，見直すニーズが高まっています。見直すときには，様々な立場の住民の声を参考に，できるだけ多くの方が納得する形で変更していくことが大切です。

3－2 デジタル化の工夫

デジタル技術が得意な人に、スマホの使い方を教えてもらったり、パソコンやスマホで地域の情報が見られるよう、発信ページを作ってもらいました。（中京区，約50世帯）



ご年配の女性は、何にでも興味をお持ちで、覚えるのが早いんですね。日常的にスマホを使って連絡しあっているので、町内会の発信にも協力いただいています。（東山区，約60世帯）

【コラム】

スマホは、使える人から見ると便利ですが、使えない人や苦手な人から見ると面倒なものです。一方、使いこなせば地域活動も効率化できる便利なツールになります。地域活動に上手にデジタル技術を取り入れて負担を減らし、デジタル技術の苦手な住民の皆さんにも理解を広めていきましょう。

「私たちでできることは限られます」

「住民だけでなく 外の力も借りてみよう」

地域には、住民だけでなく、店舗や企業、趣味のサークルや活動グループなど、様々な団体があります。それらの団体の従業員や関係者、各分野の専門家などの力を借りることで、住民だけでは解決できないことにも取り組むことができます。地域活動をオープンにして、関わりを広げていきましょう。



- 4 - 1 NPOなど市民活動団体との連携
- 4 - 2 企業・事業者との連携

4－1 NPOなど市民活動団体との連携

子ども支援団体から活動場所の相談があり，自治会館を提供しました。子どもを通して，地域での交流が広がっています。（南区）



【コラム】

各分野で活動する団体が困っていることを一緒に考えてみましょう。協力し合いながら地域も一緒に考え，取り組むことで，地域でのつながりが広がるかもしれません。



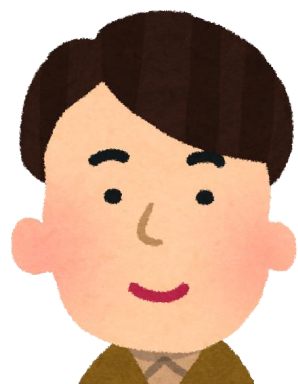
NPOでも活動している役員が，SNS発信やチラシデザインの経験を活かして，地域活動の広報担当をしています。（上京区）

【コラム】

普段の仕事や活動が地域で活かせるかもしれません。得意なことで地域に関われないか，お互いの興味や関心を聞き合う時間を持ってみましょう。

4－2 企業・事業者との連携（1）

個人会員とは別に、企業や団体は賛助会員として参加してもらっています。お店の従業員の方も、回覧や配布物を手伝ってくれて、とても助かっています。（上京区，約30世帯）



町内に新しくできた宿泊施設と、夏まつりを一緒に考えています。発想が豊かで、面白いアイデアをたくさん出してもらえますね。（左京区，約60世帯）

清掃活動の時は、町内の企業から従業員の皆さんが参加してくださいます。すっかり顔見知りになって、店先でお会いしたら挨拶も交わすようになりました。（東山区，約50世帯）



4－2 企業・事業者との連携（2）

コロナ禍で出にくい方のために、近所のスーパーから週に2回、出張スーパーに来てもらっていました。住民同士が顔を合わせる機会にもなり、助かりました。（南区，約690世帯）



企業が多く立地しているので、町内会と企業と一緒に協議会を立ち上げ、景観や悪臭などの、地域特有の課題を話し合っています。（上京区，約20世帯）

【コラム】

京都の中小企業の皆さんは、人と自然と地域を大切に、地域に根ざし、地域と繋がり、地域と共に継承・発展する「地域企業」とであると宣言されました。住民だけで解決できないことも、地域の企業と一緒にできることはないか、一緒に考えてみましょう。

「京都・地域企業宣言（平成30年9月）」 [京都市：京都・地域企業宣言 \(kyoto.lg.jp\)](https://kyoto.lg.jp/)

「コロナが収まったら何から始めよう」

「様々な意見を聞きながら 少しずつ再開しよう」

住民同士が顔を合わせる機会を再開したいと思う反面、まだまだ集まることに抵抗を感じる住民もいらっしゃいます。様々な意見に耳を傾け、感染予防対策をしっかり講じたうえで、少しずつ親睦の機会を再開しましょう。また、これからも無理なく住民同士のつながりが続けられるよう、この際じっくりと話し合い、新しいやり方に見直していく機会にもしましょう。



5 コロナ禍の工夫（1）

新しい
地域活動
スタイル
2

コロナで活動がほとんど中止となり，住民同士でつながる機会がなくなったので，せめて各戸にお知らせを回覧して，情報発信をこまめに行いました。（北区，約100世帯）



【コラム】

顔を合わせる機会が少なくなると，防犯の面からも安心できる環境づくりに影響が出る場合があります。いつも以上に情報発信をこまめに行い，助けあえるつながりを保ちましょう。

夏まつりができなかったのもので，クリスマスにサンタクロースに扮して子どもたちにプレゼントを配りました。おかげで，子どもたちの顔がわかるようになりました。（山科区，約190世帯）

【コラム】

子どもたちを中心とした交流が少なくなると，保護者同士だけでなく，世代を超えたつながりも薄くなる一方です。感染予防対策を講じながら，住民同士が顔を合わせる機会を作りましょう。

5 コロナ禍の工夫（2）

集まって会議がしにくいため、役員同士はLINEグループやショートメールなどで連絡をとっていました。とても便利で、集まって会議を始めても続けています。（東山区，約50世帯）



【コラム】

コロナ禍だけでなく災害に備えるためにも、役員同士がこまめに連絡できるしくみを持っておきましょう。いざという時に役に立ちます。

コロナ禍で活動ができなかったため、規約を作ったり，組を再編したり，住民アンケートをとったりしながら，この機会に活動内容を見直しました。（左京区，約100世帯）

【コラム】

コロナ禍で活動が少なくなった分，この際じっくりと活動内容を見直すなどして，これからも無理なく住民同士のつながりが続けられるようにしましょう。



地域活動の心得

◎これまでの方法を変えても、工夫して活動を続けましょう

一度活動を中止してしまうと、なかなか再開できないこともあります。活動によって築かれてきた“住民同士のつながり”など、地域の大切なことを守っていけるよう、無理のない範囲で、活動を継続しましょう。

◎この機会に、これまでの活動を振り返ってみましょう

改めてこれまでの活動が果たしてきた役割・意義を深く考え、代替手段や新しい方法、新しい参加者や協力者とつながる方法について考える機会にしていかがでしょうか。

◎正解は1つではありません。皆さんと一緒に考え、進めていきましょう

地域や社会状況によって事情は変わり、すべてにいつでも当てはまる完全な方法はありません。各地域で皆さんが、それぞれにふさわしい活動の方法を一緒に考え、進めていきましょう。